

年 組 名前:



A I を搭載したブドウ選果の実証機 山梨市下栗原

選果機の開発を担当したシブヤ精機（浜松市）やJA全農やまなしによると、この選果機は、これまで目視で行われていたブドウの房の形状や傷の有無などをAIで分析するほか、近赤外線で糖度を測定する機能を備える。コンソーシアムは「さまざまな要素が見える化され、品質のばらつきを防げる」としている。

# ブドウ選果AIで

## 県組織 共選所に実証機設置

山 梨

県やJA全農やまなしなどでつくる「ぶどう房選果実証運用コンソーシアム」は、メーカーと共同開発を進めていた、ブドウの選果機を山梨市内の共選所に設置した。搭載した人工知能（AI）で房の形状や傷の有無などを分析し、輸出拡大やブランド維持に向けた品質の安定化を図る。8月中旬から選果機を活用した実証実験を行う予定。

〈山本就三〉

んだシャインマスカットを選果し、AIにブドウのデータを学習させていく。実用化は4、5年後を想定しているという。

コンソーシアムは実証実験を通じて得られた結果を検証し、選果機の改良やブドウの生産力向上などにつなげる方針。

15日は同共選所で、選果機が披露され、JA全農やまなしや県の関係者ら約30人が出席した。コンソーシアムの会長を務めるJA全農やまなし運営委員会の小池一夫会長は「生産者や販売、流通業者にとって非常に有効。まさに夢の機械だ」とあいさつ。シブヤ精機の担当者も選果機の機能を説明した。

(2025年7月16日付 山梨日日新聞18面)

### 問1

けん ジェイエーぜんのう  
県やJA全農やまなしなどでつくる

きょうどうきぎょうたい かいはつ すす  
共同企業体が開発を進めていた

せんか き せつち ばしよ  
「ブドウの選果機」を設置した場所を

こた  
教えてください。

市 のJA 山梨の 共選所

問2 この選果機では、AIと近赤外線を、どのようなことに利用していますか。

エーアイ  
・AI :

きんせきがいせん  
・近赤外線:

問3 この選果機の実用化に向けて、どのような実証実験を始めますか。